

八学光星・2年連続

# 夏に挑む

①

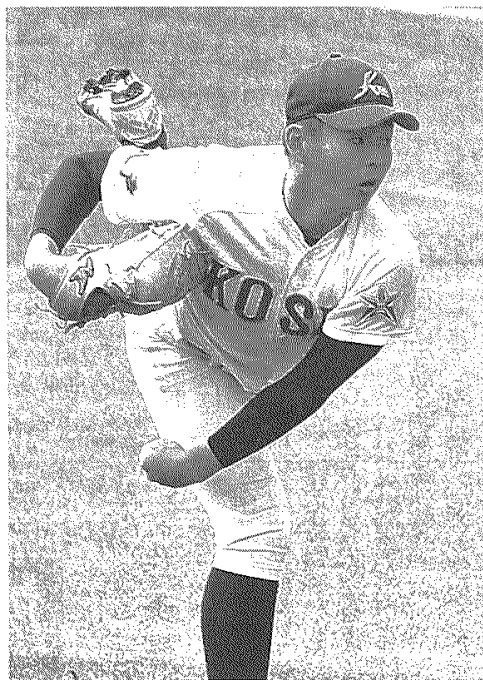
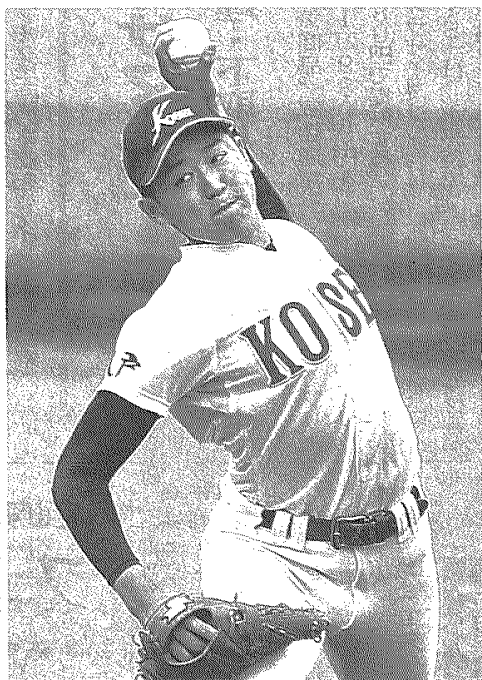
1日早朝、第105回全  
国高校野球選手権大会に青  
森県代表として出場する八  
学光星ナインが八戸市か  
ら、戦いの舞台となる阪神  
甲子園球場へ出発した。

前日は厚弁や市庁などを  
表敬訪問。慌ただししい日  
だったが、中澤恒貴主持は  
「県代表として恥じないプ  
レで甲子園を勝ち抜き、  
優勝旗を青森に持ち帰る」  
と意気込みを披露した。

八学光星は昨年9月、新  
チーム発足後、初戦となっ  
た秋の県大会2回戦で弘前  
東と対戦。昨夏の甲子園を  
経験したメンバーも残って  
いたが、結果はまさかの逆  
転負けだった。仲井素基監  
督は「投手陣の弱さ」が敗  
因の一つだったと振り返  
る。

敗戦後、投手陣は練習の  
合間に、効果的に栄養を摂  
取る「補食」を取り入れ  
るなどし、体を徹底的に大  
きく強くした。投手2本  
柱の一人である左腕・岡本  
琉奨は、秋から春にかけて  
体重が6kg増量し80kgに。  
夏の甲子園のマウンドにも  
立った同じ左投げの洗平比  
呂は7kgアップし、たくま  
しい体に仕上がった。  
冬場はウェイトや体幹の  
トレーニングなどに精を出

## 敗戦糧に心身たくましく



成長著しい八学光星の岡本琉奨(右)と洗平比呂。6月、きたぎんホールパーク

し、投げるボールもパワー  
アップ。今年3月の関西遠  
征では「長いイニングを投  
げても球威が落ちなくなっ

た(洗平)、「秋は未熟  
に成長を遂げていった。  
今春の県大会決勝では岡  
本、洗平の二枚看板に続く  
も、2人は着実に、もう一人を育成しよう」と

仲井監督は経験の浅い投手  
を起用。投球内容は十分だ  
った一方、活発な打線は鳴  
りを溜め、膝下の変化球に

## 岡本、洗平の両左腕が台頭

安易に手を出すなとし、勝  
ち切ることができなかった。  
3番手でマウンドに上  
がった洗平は2失点。「何  
とか抑えようと思ったが  
……」と油断があったが  
ただ、公式戦の経験を積  
み重ねることができたのは  
チームにとって大きな収穫  
となった。「夏の本番に向  
けた大会」と位置付けた6  
月の東北大会でも両左腕は  
レベルアップ。昨夏の甲子  
園覇者・仙台育英(宮城)  
との決勝で3-2の接戦を  
繰り広げたように、打線が  
相手投手陣を打ちあぐね  
ている展開でも主導権は渡  
さなかった。9回途中2失  
点と好投した洗平は「自分  
の球が仙台育英に通用す  
る」と実感し、自信となっ  
た。

□ □  
八学光星のこれまでの足  
跡を振り返りながら、甲子  
園での戦いを展望する。  
(千葉達也)